

「maretta」とは、イタリア語で「さざなみ」を表す言葉です。この「さざなみ」は建物正面を小刻みに波うつ鋼板パネルを言い当てるとともに、建物のトータルコンセプトの象徴となっています。

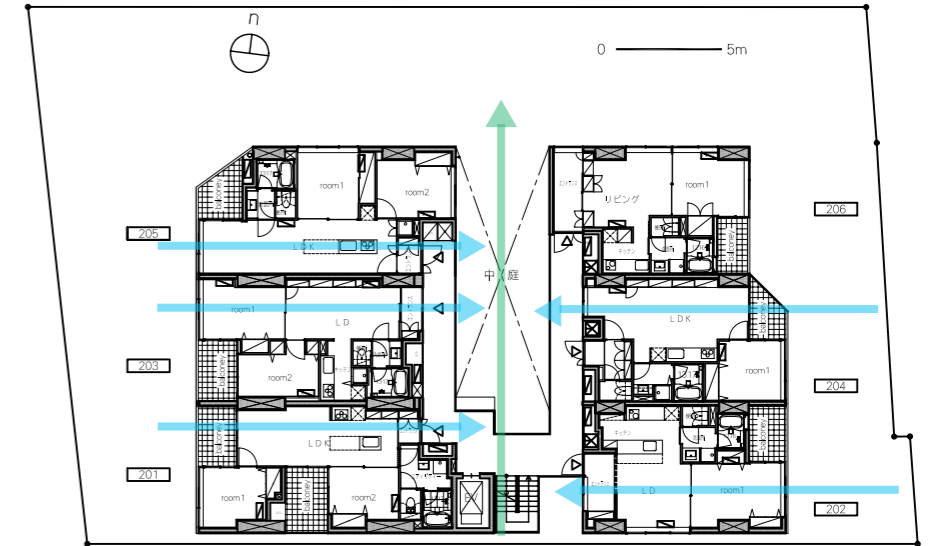
この鋼板パネルには、波山の両側に粗密のパターンで孔があげられ、道行く人の動きに合わせて透けた模様と閉じた模様へとイメージを変化させます。

この変化は、各住戸の間取りにも共通したテーマとなっています。入居者による、それぞれのライフ・スタイル、ライフ・ステージに合わせた暮らしを可能にします。居住者の住みこなしによって、様々に変化する間取りです。



①中庭のある暮らし

この建物の住戸は、2・3階の3部屋以外すべて角部屋となっています。さらに、中庭をはさんで2つの建物を建てることにより、住戸の3面が外部に接するタイプが多数あります。道路と中庭、東側隣地と中庭は開口部でつながれ、心地よい風の通り道をつくっています。また、風は中庭を南北に通抜け、良好な周辺環境形成へ配慮しております。中庭に人々の気配を感じつつ、一つの大きな家に暮らす安心感を得ることができると思います。



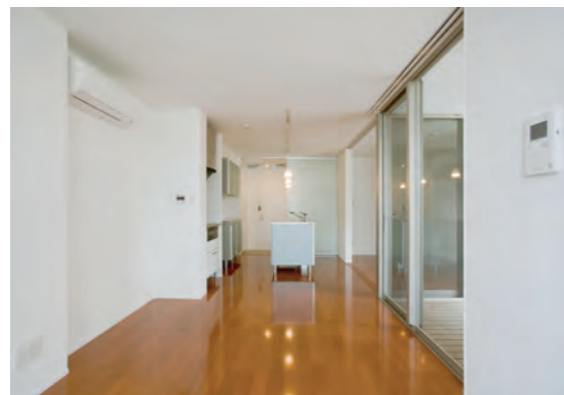
②さざなみの建物正面に暮らす



建物正面は街と居住者をつなぐ重要な要素です。「さざなみ」のように小刻みに波うつ鋼板パネルは、孔の大きさをタイルの大きさにそろえ、山の両側に粗密のパターンであけられています。

道行く人からは、透けたイメージから閉じたイメージへと徐々に姿を変貌させます。粗く開けられた面は、日の差す南へと向き、閉じた面は強烈な西日を低減する効果を見込んだ形状となっています。

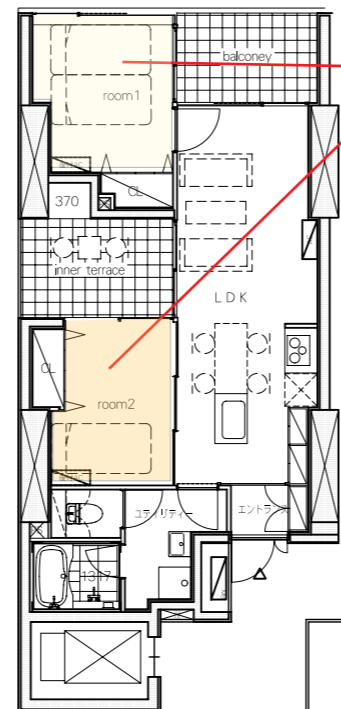
粗密の孔の間から、居住者の暮らしの様子がリズムカルに表出し、通りに賑わいを与える



③可変性のある住戸の暮らし

居住者には、それぞれのライフ・スタイル、ライフ・ステージがあります。これまでの集合住宅は、3LDK、2LDKなど、核家族の構成人数に従い、個々へ部屋があてがわれることを想定した間取りが長年採用されてきました。ところが、現在の暮らしは多様化し、SOHO、友人同士のルームシェア、DINKSなどの居住形態は日常的になっています。また、夫婦二人でいる間は広々としたリビングのある生活をし、子供ができれば仕切れる。あるいは、来客がある時はサッと建具で寝室を隠せて、普段は開けて広々と暮らす。そうした多様な暮らしに、建物が追従できることを目指しました。部屋を自由に間仕切るために、天井がすっきりフラットとなる扁平ラーメン構造を採用しました。

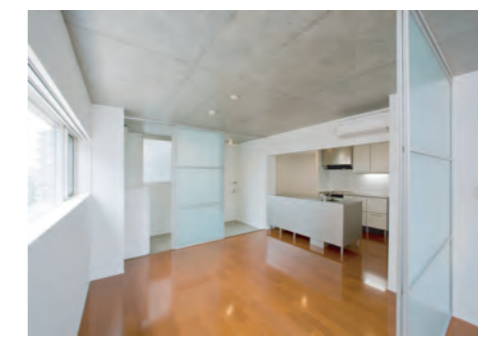
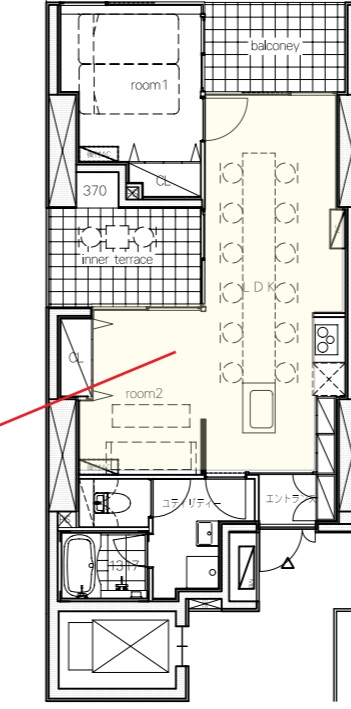
スタンダードに2LDKとして利用したケース



それぞれにバルコニーをもつ、独立性の高い居室が2つ。家族でも友人同士のルームシェアとしても住みこなしができる。

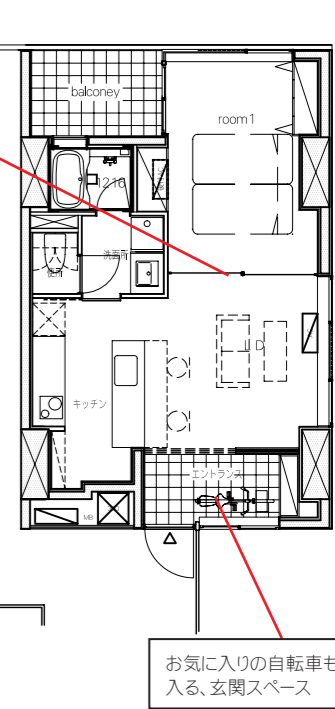
ホームパーティーを楽しむ暮らしや、料理教室にも展開可能。

料理教室や、SOHOとして利用したケース



来客時はサッと閉じることができる、アルミ引戸。閉じていても、光が入るようになっている。

広々としたスタジオタイプの部屋



お気に入りの自転車も楽々入る、玄関スペース